



## 36年ぶりの日本開催で日本の芝草管理の進化を海外の多くの参加者に見てもらいたい。

7月12〜16日にかけて第15回国際芝草研究会議（ITRC2025）が1989年以来36年ぶりに日本開催となる軽井沢プリンスホテルウエスト（長野県）にて開催される。

同研究会議の実行委員会は、25年の開催に向けて、大学院生スピーチコンテスト・現地見学会の参加者募集や実務者セミナー・シンポジウムの講演者選定、協賛金誘致など様々な準備を行ってきた。

国際芝草研究会議の取り組み

や内容などについて、外木秀明国際芝草学会会長で、第15回国際芝草研究会議実行委員長からお話を聞いたので紹介したい。

—— いよいよ国際芝草研究会議が開かれます。今の開会の経緯やきっかけを教えてください。

**外木** 直近の国際芝草研究会議は、2022年にデンマークで開催されました。今回の日本開催は1989年以来36年ぶりとなります。

今までは4年間隔で行ってきましたが、前回はコロナ禍の影響で1年延期しているため、今回との間は3年間隔になりました。

1969年第1回会議から4年に1度世界で会議を行っている中で、私が現役の間に日本でやりたいと思ったことがきっかけです。

実は、この研究会議を立ち上げ、第1回の会長を務めたのは、私がアメリカテキサスA&M大学留学時の恩師であるジェームス・ペアード教授（故人）です。その先生の影響を受け、また

36年前の大会に参加したことも刺激となり、私が現役の間に必ずやりたいと思ってました。結果的に、国際芝草学会の取り決めにより、国際芝草研究会議の開催国の理事が、国際芝草学会会長となり、大会実行委員長となり大会を開催することで進めております。

なぜ、日本で開催したいのかと言いますと、36年前から今まで、日本国内では、芝草研究で得た知見を活かして、実際に産業に活かしていることを世界の研究者を含む参加者に見て欲しいと思ったことが一番大きな理由です。

前回（第6回）を経て、芝草管理技術者制度ができ、その結果として全国各地で活躍する芝草管理技術者がいるから綺麗な形になっていると思うのです。

スポーツに目を置きますと、ゴルフでしたら松山英樹選手など世界で優勝を争えるスポーツ選手が過去から比べると増えてきました。我々が、世界基準のコースづくりができるようにな

つたことが大きいと思います。その結果、世界に通用する選手が生まれたことと思っております。

別な観点から言えば、今や日本のゴルフ場管理は世界基準であると言っていると思います。サッカーも同じです。

世界基準のコースが日本に出来たことから海外で活躍する選手が生まれたと思います。それは海外でも通用するということを示した一つのバロメーターではないかと思えます。

—— 大会のコンセプトやテーマを教えてください。

**外木** 前回の2022年大会のテーマであるSDGsのテーマを継承し、南北に長い日本の地形と四季のある日本の気象条件に合わせたSDGsの達成をテーマとしました。

南北に長いということは、寒地型芝草から暖地型芝草の管理の両方ありますから、それは世界のどの場所でも通用する技術を学ぶことに繋がると思うのです。



—— もうすぐ開催となりますが、今の心境は？

**外木** 大会準備は、開催決定から準備を始めていますから、8年前からになります。様々な決め事は、大会準備委員会を設立して準備を進めています。細かな決め事も順に確定しており、多忙な毎日です。

しかしながら、あと2ヶ月でその会議が開催される期待感もあり、2ヶ月後には、大きな達成

成感に満たされるだろうとも想像しています。

皆さんにもこの国際会議の一部を体感してもらえよう、7月13日のプログラムでは、実務者セミナーをご用意致しました。

日本語で話す講演者のセミナーでは英語の字幕、英語で話す方のセミナーには日本語の字幕を付ける対応を行います。

海外からの発表者は、専門用語を多く使って話すので、日本語で字幕をつければ理解できると思っております。ぜひ参加して欲しいのが大会実行委員会からのお願いです。

—— 今回の研究会議には何カ国が参加予定ですか？

**外木** 現在の参加予定は、アメリカ、アルゼンチン、イギリス、オーストラリア、オランダ、イタリア、カナダ、韓国、中国、チリ、デンマーク、ドイツ、マレーシア、ノルウェー、シンガポール、スペイン、スウェーデン、スイス、フランス、タイ、

南アフリカ、日本の22カ国です。今後さらに増える予定で、30カ国・500人の参加を目標としています。

現在のところ、海外企業から19社、国内企業からは36社の合計55社から協賛金をいただいております。大変ありがたいことです。

日本では芝草研究が不十分な環境の中で、日本の芝草産業の発展の寄与に貢献した海外の研究者を応援するためにも、引き続き国内の芝草関連企業にもお声掛けさせていただいており、少額で良いので、ご協力いただきました。引き続きお願いしてるところです。

—— 12日から16日の研究会議でそれぞれのポイントを教えてください。

**外木** 初日の12日は14時から開会挨拶と基調講演があります。基調講演の前には国際芝草学会として前大会会長からメッセージを出します。

R & A, USGA, STERF, という世界でゴルフに関する協会があり、その協会が資金

を出して、ゴルフ場の芝草が世の中に対して有用である研究に対して研究資金を提供のプレゼンを20〜30分の間で行います。

基調講演では、3件の発表を予定しており、日本の芝草研究の歴史、そしてその中でも校庭芝生の取り組みの歴史、最後に日本芝育種の最前線についての発表をお願いしております。

開会挨拶は実行委員長である私が行い、主催者挨拶は日本芝草学会の赤嶺会長が務めます。来賓挨拶は日本芝草研究開発機構の田村理事長にお願いしております。

基調講演が終わりましたら、歓迎レセプションを18時半から開きます。

13日は、先程説明しました実務者セミナーを開催致します。そのセミナーとともに大会が本格的に開催され、各会場で口頭発表やポスター発表が行われます。

口頭発表では、芝草の病害についての発表が午前のセッションと午後のセッションに分かれ

て開催し、午後のセッションは、持続可能な景観管理や芝草の根圏設計と土壌管理についての発表があります。13日午後は、日本から参加の口頭発表も予定されております。

14日は、口頭発表と大学院生によるスピーチコンテストを開催致します。大学院生のスピーチコンテストでは世界の大学から30名ほど参加予定で行われます。

15日は、現地見学会を開催致します。

見学会では、埼玉県内を5台のバスで見学ルートを用意し、埼玉スタジアム2002、熊谷ラグビー場、日高CC、JRA東京競馬場、大宮盆栽美術館などの中から3カ所を訪問します。

そして、長野県内コースでは、3ルートを用意し、浅間高原CC、サニアパーク菅平、長野Uスタジアムを順に見学致します。家族プログラムは観光コース

として長野県内観光地を巡り、合計9つのコースを用意しております。

既に3コースが満員となりました。協賛企業にもご協力をいただき、熱中症対策グッズの提供もお願いし、万全な対策を講じております。

16日午前中に行うゾイシアシンポジウムでは6名の方が講演します。

日本の2名の先生からは「日本芝利用の歴史と最先端の研究事例の紹介」と「デジタル3D技術を用いた芝草の携帯計測分析とその育種への応用」についての講演があります。

そして、ジョージアのスザーナ・ミラールイス先生（芝育種の遺伝学）や米テキサス州のアンピカ・チャンドラ先生（米国におけるグリーン芝品種の開発と利用）の講演や、芥屋GCのアンドリュウ氏による、日本のコウライグリーンの管理の紹介の講演もあります。

午後には総会、スピーチコンテスト表彰式、晩餐会があります。

日本のグリーンキーパーでは、ゴルフ5カントリー美唄コース

の出倉さんが14日午後のセッションで「ゴルフコース内芝草管理のDXへの取り組みの成功事例の紹介」を口頭発表で行います。

私としては、13日の実務者セミナーはもちろんのこと、14日の口頭発表、16日のゾイシアシンポジウム、この3日間は是非とも足を運んで欲しいと思います。

—— 今回の目玉となる実務者セミナーの講演内容について概要を教えてください。

**外木** 実務者セミナーは朝9時から夕方5時まで行います（実務者セミナープログラム参照）。それぞれの15分刻みでスケジュールを決めました。

この実務者セミナーでは、今回の大会を成功に導くために協賛をいただいた企業の皆様と世界で今最も活躍する大学の研究者4名の最新の芝草研究並びに芝草管理技術の紹介をテーマに終日セミナーを行います。

今までの研究会議では大会参加者（研究者）向けにプレゼン

実務者向けセミナー プログラム (暫定版 ver.3)

Practitioner seminar Program (Draft ver.3)

実務者セミナー パートI Practitioner seminar Part I 9:00- 12:00 July 13, 2025 Room. ASAMA								
	Start	Finish	Category		Affiliation	Presenter	Title	Class of Sponsorship
	9:00	9:05	Opening Remarks		President, Hideaki Tonogi			
1	9:07	9:22	機械・機器・資材 Machinery, Equipment, and Turf care product	Keynote speech	オーバーン大学 Auburn University	スコット・マッケルロイ教授 Prof. Scott McElroy	The future of mowing (Tentative)	
2	9:24	9:39			ハスクバーナ・ゼノア株式会社 Husqvarna	小野崎智雄 T. Onoshima	ロボット芝刈機による芝生管理ソリューション Autonomous turf care solutions	Premier
3	9:41	9:56			Toro	ジョシュ・フリール Josh Friell, Ph.D.	Technology Adoption in Turfgrass Management Supports Sustainable Development Goals	Premier
4	9:58	10:13			株式会社共栄社 Kyohei-sha Co., Ltd.	To be announced	弊社が提案する芝草管理への新たな取り組み(仮) New approaches to turfgrass management proposed by our company (tentative)	Premier
5	10:15	10:30			Ecorobotix	クロード・ジュリアン Claude Juriens	芝草管理における全面散布の終焉：高精度管理へようこそ The End of Blanket Spraying in Turf Care: Welcome to Ultra-High Precision	Gold
	10:30	10:50	休憩時間 Break					
6	10:50	11:05	SDGs	Keynote speech	ウィスコンシン大学マディソン校 University of Wisconsin-Madison	ダグ・ソルダート教授 Prof. Doug Soldat	Carbon sequestration Project (Tentative)	
7	11:07	11:22			R&A	クリス・グレイ Chris Gray	R&A - 持続可能なゴルフと農学におけるリーダーシップ The R&A - Leadership in Sustainable Golf and Agronomy	Gold
8	11:24	11:39			STERF	Maria Strandberg	気候 - 能力 - 資本 - 協力: STRETF Climate - Competence - Capital - Cooperation: Scandinavian Turfgrass and Environment Research Foundation	Gold
9	11:41	11:56			E.Marker	ジャン・カジャール・ラスムッセン Jan Kjaer Rasmussen	オレゴン州立大学の研究による、無農薬でのマイクロドクキウムパッチの抑制 Pesticide free Suppression of Microdochium Patch- Oregon State University Research.	Premier
10	11:58	12:13			バイケミックスジャパン株式会社 Bichemic Japan Co., Ltd.	池見辰生, T. Ikemi (Phil Dwyer, Ph.D.)	有機物管理のための革新的な生物学的解決方法 Innovative biological solutions for organic matter management	Platinum
	12:13	13:30	休憩時間 Break					
実務者セミナー パートII Practitioner seminar Part II 13:30-17:00 July 13, 2025 Room. ASAMA								
11	13:30	13:45	農業 Part I Agrochemical Part I	Keynote speech	University of Arkansas	Dr. Wendell Hutchens	芝草管理におけるリアルタイムでの雑草検知と精密管理の基礎 Fundamentals of real-time pest detection and precision management in turfgrass systems	
12	13:47	14:02			シンジェンタ Syngenta	Dr. Kathleen Dodson	弊社が提案する芝草管理への新たな取り組み(仮) New approaches to turfgrass management proposed by our company (tentative)	Legacy Premier
13	14:04	14:19			Envu	コリン・マンフォード Colin Mumford	グリーンキーパーのニーズに応える革新的なソリューションの開発 Developing innovative solutions to address the needs of the turf professional.	Premier
14	14:21	14:36			丸和バイオケミカル株式会社 Maruwa Biochemical Co., Ltd.	湯山将輝 M. Yuyama	ゴルフ場管理と緑化への貢献 Contribute to golf course and landscape management	Platinum
15	14:38	14:53			東洋グリーン 株式会社 Toyo Green Co., Ltd.	幸村陽子 Y. Yukimura	芝のフルラインサービス企業としてのBMPsへの取り組み Commitment to BMPs as a full-line service company of turfgrass	Gold
16	14:55	15:10			レインボー薬品 Rainbow Co., Ltd.	大村武史 T. Ohmura	緑地管理を通じて人と環境との虹の架け橋となる Be a rainbow bridge connecting People with the environment, by means of the management of green lands	Gold
	15:10	15:30	休憩時間 Break					
17	15:30	15:45	農業 Part II Agrochemical Part II	Keynote speech	ウィスコンシン大学 University of Wisconsin	ポール・コック教授 Prof. Paul Koch	芝草の精密な病害管理を実現するための戦略(仮) Strategies to implement precision disease management on turfgrass!	
18	15:47	16:02			理研グリーン RIKENGREEN CO., LTD.	岡村誠之 M. Okamura	弊社が提案するヒメクダ防除の新たな取り組み(仮) New approaches to controlling Green Kyllinga proposed by our company (tentative)	Platinum
19	16:04	16:19			PBI-Gordon	ジェフリー・W・マーヴィン Jeffrey W. Marvin	芝草産業向けの次世代ソリューションの研究開発のための革新的な製剤技術の活用 Leveraging innovative formulation technology to research and develop next generation solutions for the turfgrass industry	Gold
20	16:21	16:36			石原産業 株式会社 Ishihara Sangyo Co., Ltd.	福森庸平 Y. Fukumori	弊社が提案する芝草病害防除への新たな取り組み(仮) New approaches to turfgrass disease control proposed by our company (tentative)	Gold
21	16:38	16:53			BASFジャパン株式会社 BASF	松浦聖子 S. Matsuura	ゴルフ場の芝生病害における新規DMI系殺菌剤の有効性について Use of Novel DMI Fungicide for Disease Control in Golf Course Turf	Gold
22	16:55	17:00	閉会の挨拶 Closing Remarks		大会実行副委員長 Vice President, Shin Nakamura			

テーションを行っていました。

研究者やメーカーの研究者の皆さんにプレゼンをしてもすぐ成果には結びつきません。

そこで、せっかく日本に世界の研究者が集まるのだから、ただ協賛するだけでなく、日本の実務者の希望する皆様に最新の情報提供を紹介できる機会があった方がよいと企画致しました。実際に実務者の方にお集まりいただき、協賛企業が話題提供することで、双方にメリットがあると考えたことが、今回企画した意図です。

そうすると、単なる商品説明会ではなくて、『学術的なスタンスでこのような研究をやっている、これからはこうなる形を目指していますよ』という形で実務者にとっても、将来の方向性を得られるヒントが得られるセミナーになると思います。

実務者セミナーの参加者は、200名の参加者を目標としているので、ゴルフ場のグリーンキーパーさんやスポーツターのグラウンドキーパーさんには

是非参加してほしいです。

その時に全国から集まった参加者同士の出会いや再会が次の5年、10年に向けての良いチャンスになると捉えてほしいと考えています。

またセミナーでは、AIで雑草を探し出して除草剤を散布するスイスのロボット製作会社(ecoRobotix)も協賛企業として参加し、実務者セミナーで講演致します。

その会社からは資料を海外から郵送したい希望がありました。が、ペーパーレスに取り組み観点から、その資料はQRコードで資料を閲覧、ダウンロードできるよう準備をしているところです。

大会参加申込は、インターネットで簡単に登録できるようにし、1日参加の受付も行っております。

13日は参加費は、他の参加日よりも安価に設定致しました。しかも13日から通常の口頭発表、ポスター発表も開催されますので、主催者側としては、国際会

議の雰囲気味わってほしいと思います。

そして、実務者にとっても、非常に価値のある体験ができると思っております。

国際芝草研究会を通して、今後はどのような取り組みをしていきますか？

**外木** 日本芝草学会では、昨年に公園内芝生地管理のガイドラインを作るために委員会を立ち上げました。

多くの行政機関の担当者にお聞きしたところ、芝生地管理のガイドラインがなく、困っているところが多いということ、我々芝生管理の専門家が、官公庁向けの芝生地管理のガイドラインを叩き台として各地の事例を紹介することで日本の芝生地がもっと良くなると思っております。

そして、我々、芝生に関係する方々の仕事や、各地で評価される流れになるよう取り組んでいきたいと考えております。

今後の日本芝草学会の取り組みの1つとして、今回R&A、

USGA、STERFが研究資金の提供のプレゼンに応募した研究者の中に、ゴルフ場の芝生の炭素貯留量を世界規模で調査したいという企画書を出した研究者がおり、日本も協力することで準備を進めております。

この企画が承認されれば、2026年からゴルフ場のフェアウェイ・ラフ・隣接する森林の土壌中の炭素貯留量を調査します。

3年後の2029年にも調査し、2026年と2029年の炭素貯留量の差や芝生の刈込高の違いによる炭素貯留量の違いを測ります。

日本の芝生地での炭素貯留量の数値を提供することで、世界規模でのプロジェクトに参加して、日本の存在感も示しながら、その結果として「芝生地は、炭

素貯留でも世の中に貢献しているのですよ」ということを世の中の皆さんに示していきたいと思っております。そういう研究のお手伝いをしていきたいと思っております。

ありがとうございます。